真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月25日

事務事業名	総合計画推進事業		担当課・係	総合政策部　総合政策課　総合政策係
政策名　No	7	「行政経営づくり」～効率・効果アップ！～	関連するSDGs･DX	 DX
施策名　No	3	安定した行財政運営		

成果指標	名　称	初年度からの実績値の比較						目標値
		単　位	R7	R8	R9	R10	R11	R11
	評価した事務事業数	件	194					
	総合計画の推進	%	100					

事業内容

①総合計画推進に向けた適切な行政評価の実施
②もおか若者会議の運営

前年度の課題（Check）

①行政評価
実績：令和２年度中に見直しを行った行政評価システムに基づき、行政評価を実施した。
成果：事務事業評価結果を実施計画策定シートに記載することで、行政評価の結果内容を意識できるようにした。
課題：1.評価結果が出る前に実施計画作成が始まり、振り返りが反映されにくい状況にあるため、実施時期等を見直す必要がある。
2.行政評価シートの内容が振り返りが多く、今後の方向性が見えにくく、実施計画策定に生かされにくい構造になっている。

②もおか若者会議
（R6は事務事業評価未実施）
課題：若者会議の趣旨がうまく事業に反映されておらず、若者会議の意義や位置づけがあいまい。

7年度振り返り

【１】実績（Do）７年度に実施した事業
①行政評価
○現在の行政評価システムについては、評価のマンネリ化、目的意識の低下等の課題があったため、R7年度から新たな総合計画がスタートすることに合わせて施策評価及び事務事業評価の課題を整理するとともに、スケジュールやシートデザイン変更等のやり方改善を行った。なお、作業開始に先立ち、PDCAサイクルを着実に実行するための説明会を実施した(R6年度実施）。
○評価結果報告会については、令和5年度で41施策の評価が一巡したため、令和7年度の2年間は、評価が必要な施策を抽出して行った。
・評価を行った事務事業数…267事業、・評価を行った施策数…41施策。　PDCAサイクル改善及び、職員負担軽減のため、事務事業の統廃合を進め、194事業に絞った。

②もおか若者会議
○月例ミーティングの実施　○研究活動（人口問題　等）　○交流活動（賑わい創造部の協力による門前散策　等）○他課から依頼を受けての諮問答申（ライフプラン講座）
○上記事業を実施する中で若者の考え方を整理し、R8.1　市長ミーティングを実施した。（R8広報広聴係のプレ事業）

【２】結果と課題（Check）
①行政評価
○行政評価実施の意義が職員に十分に浸透していないため、評価シートを実施計画との連携を重視したデザインに変更し、事業ごと、担当者ごとのブレを少なくなるようにしたことが実際に評価をしてみて、どのように作用するか見ていく必要がある。

②もおか若者会議
○事業開始から3年が過ぎ、一般参加者の応募が減少している。「真岡まちづくりプロジェクト」との住み分けや、市長の考え方（若者の意見を聞く機会が欲しい）を考慮すると、次年度に向けて抜本的に方針を変更する時期に来ていると思われる。
○補助金等の見直しから、R8年度の市補助金がなくなったので、事業を工夫して進める必要がある。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　■ 事業統廃合　■ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　□ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【３】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

（1）ただちに取り組むべきこと
①行政評価
行政評価システムの使用感等の意見を聞きながら引き続き改善に努めたい。

②もおか若者会議
R8から運営主体を民間組織へ移行する「真岡まちづくりプロジェクト」との統合を含め組織の在り方検討や実施回数減を実施し、将来的に市長が若者の率直な声を聴く機会の創出に力点を置いた会議に変更していく。

（2）長期的な計画で検討すること
①行政評価
次期総合計画（2030～2034）策定までに、AI活用など行政評価システムのさらなる改善策を検討していく。
②もおか若者会議
将来的に市長が若者の率直な声を聴く機会の創出に力点を置いた会議に変更していく。